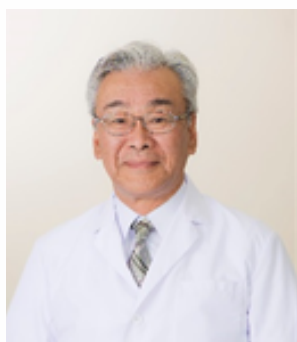


人っぴすほ



NO.302

“自分だったらどう処遇されたいか”



社会医療法人耕和会
社会福祉法人耕和会
理事長

迫田 耕一郎

さこだ こういちろう

これは医療介護の現場で働く私たちにとって大きな命題である。これを小戸の家（特養）の各階のエレベーターホールに掲示し戒める日々である。

先日、市原美穂さん（全国ホームホスピス協会理事長）からメールが届いた。倉本聡さん直筆の『そしてコージは死んだ』という文書の回覧である。これは尊厳死協会に宛て、すでに公開されている。氏は身近な幾つかの実話と共に紹介し疑問を投げかけ苦言を呈している。一部を要約で紹介する。

62歳のコージさん、富良野の地で40年余り、倉本さんと丸太小屋を作りながら活動を共にしてきた。ステージIV肺がんが発覚し余命2年の宣告、仕事を続けながら通院、抗がん剤、麻薬、ステロイド、そして痛みに耐えかね2度の自殺未遂、終に低酸素血症、入院し「のたうちまわって死んだ」と。身近な人が死の間際で苦しむ姿、なぜもう少し麻薬を十分に使って思い切り意識を落とし「楽に死なせてくれなかったか」「私は苦しまずにあの世に行きたい」「これは拷問だ」という叫びである。

末期がん患者が辿る険しい道について医学的知見は出揃った。それに基づいたベストケアは何だ。医学の哲学は何処にある。そんな疑問を投げかけている。医療法人耕和会の合言葉は「鬼手仏心」、治癒を期待できれば医療技術（鬼手）期待できなければ緩和（仏心）をする。慈悲の心（仏心）は「尊厳ある死」に欠かせない。技術を「拷問」にしない医学界の哲学を確立すべく議論が望まれる。



人は夫々に自分本位の価値観を携えている。

その執着からの脱却は至難の業である。一方、自分本位の価値観にこだわり過ぎると不都合が多発する。それが現実である。

衣替えの季節、冬服を夏服へ入れ替え古くなったものを捨てる断捨離のチャンス、しかし大切な人の遺品、繕えば着られそう、買ったばかりで袖を通してない、サイズが合わない又何年も身に着けていないが立派、だから手放せない。ボロを着て人前に立つのは恥ずかしい。結果、部屋は足の踏み場も無くなり物置、何がどこにあるか分からない。孫が来ても泊まる部屋もない。捨てれば部屋はスッキリ、利便性も良くなり気持ちも楽になりそう。分かっちゃいるが止められない。こだわりの心は人情、厄介である。

一休〈宗純〉禅僧の説話から、なぜ「こだわりを捨てる」のか

ある大金持ちに「明日法事をお願いします」と頼まれた一休さん、急な話にもかかわらず快く引き受けた。前日、薄汚れたボロをまとい大金持ちの家を訪れ、門から「お供えのお下がりをお恵み下され」とお願い、ところが大金持ち「見苦しい者は追い出せ」と使用人たちにさんざん打たせて叩き出した。翌日、一休さんは美しい金襴の袈裟を着て大金持ちの家を訪れ歓迎された、がどうしたことか屋敷に上がらない。困惑する大金持ちに昨日の物乞いは自分だったと明かす。「あなたが待っていたのは私ではなく、この衣でしょう」とその場で袈裟も衣も脱ぎ捨て帰ってしまった。

頓智に止まり見れば、見た目で人を判断する大金持ちを懲らしめた話、ボロを着ればボロの、金襴を着ければ金襴の立ち振る舞いで時と場合により袈裟も脱ぎ捨てる、その真意について福田宗伸さん（臨済宗妙心寺派）はこう掘り下げる。

私たちは損得・美醜・好悪・貴賤など自分と人を「分別」する。

自ら「枠」を作り、自らを「制限」する。

そして、自分本位の価値観や利益に従って行動する。

だから自分の枠に収まるものしか受け入れられなくなる。

すると他人から協調されないし、協力も得られない。

結果は自ら不安を増幅させ、心の安らぎを失ってしまう。

価値観の異なる人どうしの意見調整は難しいが、

自分本位の価値観に執着し過ぎないトレーニングをしよう。

心の衣替えをしよう。



今月の1曲 ♪

いのちの理由（わけ）

私が生まれてきたわけは 父と母とに 出会うため
// きょうだい達に 出会うため
// 友達みんなに 出会うため
// 愛しいあなたに 出会うため

春来れば 花おのずから咲くように
秋来れば 葉はおのずから散るように

しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ
悲しみの花の後からは 喜びの実が実るように

私が生まれてきたわけは 何処かの誰かを 傷つけて
// 何処かの誰かに 傷ついて
// 何処かの誰かに 救われて
// 何処かの誰かを 救うため

夜が来て 闇おのずから染みるよう
朝が来て 光おのずから照らすよう

しあわせになるために 誰もが生きているんだよ
悲しみの海の向こうから 喜びがみちて来るように

私が生まれてきたわけは 愛しいあなたに 出会うため
// 愛しいあなたを 護るため

「いのちの理由（わけ）」

音楽家さだまささんの楽曲。
2017年、耕和会30周年記念
式典でご披露いただきました。

就任のごあいさつ

4月より院長として
病院運営に取り組ん
で参ります。よろし
くお願い致します。



迫田病院
院長

迫田 哲平

さこだ てっぺい

20年ほど昔、医師3年目だったころ、当時お世話になった病院で院長の外科医、川原英之先生が教授評としておっしゃいました。

「リーダーは常に台風の目にいることを自覚すべし」。つまり、周りは強風が吹き荒れ災害まみれなのにもかかわらず自分の周りだけ無風状態であり全体の状況を把握できていないものだ。世界中どこでも、どの時代でも、どの組織でも真理をつく格言だと思います。

院長は病院のリーダーです。方針に沿う形での運営という命題で枠が決められ、そのなかで改革と創造をしていくことが役割です。そして、常に気を付けておくべきことが台風の目にならないことだと思います。時宜を得ない方針や作業、不要な建造物、調整のためだけの形式上の会議、実践に則さないが故に改訂されないままのマニュアルの山、不適材不適所、個人と全体のアンバランス、医師の働き方…などなど。残された課



題は山積み状態ですが、多くの想像にも及ばない貴重なアドバイスは患者さんのみならず、職員からこそいただけます。自分が考えているビジョンを超えるものが時折提言されることがあると、非常に嬉しいと感じます。その中で、より全体に最適化した内容を決める、権限と責任を負っているのが院長だと考えています。そして、医師としては患者さまに提供できる最上の形を作るために、どんなことでも経験の肥やしにするつもりで、さらには日頃から信じることを地道に、ひたすら繰り返していくことが職員に伝播し結果につながってくればと期待したりもしています。

調整や価値観の共有は必要ですが、リーダーとして必要なのはそれを許容する器としての役割と考えています。逆に言うと、器には限りがあります。大きければ大きいほどたくさん含有できますが、同時にどこかで区切る必要があります。その大きさの意味するところは寛容性であり、区切りとは厳格性です。どこで線引するかがリーダーの個性であり、これを決める要素は経験、創造性、情熱の相互作用だろうと考えています。



おしりとおなかのお悩みは 迫田病院 大腸肛門センターへ

迫田病院HPの外来予約のご案内をご確認ください



- 肛門疾患治療
- 内視鏡検査と治療
- 消化器疾患の治療

肛門からの出血や痛み、下痢や便秘が続くときには早めに受診しましょう。

ご予約直通 (0985)59-0123